

根岸宗一郎さんがジョセフ・リスター賞を受賞

第68回国際歯科研究学会

日本部会総会・学術大会

根岸宗一郎さん(歯学部5年)が、第68回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会(11月7日・8日、WEB開催)で、ジョセフ・リスター賞を受賞した。同日本部会は、歯科医学および関連分野の研究の促進を図り、口腔保健の向上に寄与するとともに、国際的視野にたつて国際歯科研究学会(JADR)の発展に

白衣授与式を開催

薬学部・保健医療学部

12月25日に保健医療学部、1月13日に薬学部で令和2年度白衣授与式が上條記念館にて執り行われた。同式は、臨床実習・実務実習を目前に控えた学生が倫理観や患者さんに対する思いやりの心を再認識して、医療人を目指す者としての心構えを新たにすることを毎年実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、必要な措置を講じたうえで対象学生と一部の大学関係者のみで執り行われた。また、病院では万全の新型コロナウイルス感染症対策を施しているため安心して実習を受けてほしいと説明があった。



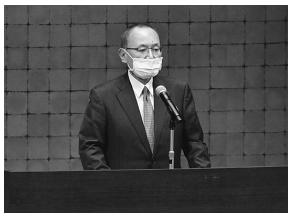
中村明弘薬学部長は挨拶

「皆さんがこれから医療の中で実際に貢献し活躍していくために実務実習は欠かせない学習の場となります。コロナウイルスの感染が広がっているなかでも、医療者を目指すという覚悟を自分の中で問いかげながら、本学が誇る臨床薬剤師を目指して懸命に努力を続けてほしいと述べた。

告辞を終えると、4年生173名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。学



生たちは真新しい白衣を身につけてこれから始まる実務実習への決意を新たにしている。



保健医療学部長は挨拶



令和2年度保健医療学部白衣授与式

保健医療学部



頌彦玲子助教

下司映一保健医療学部長は告辞で、皆さんはこれまで授業・演習等で学んできたことを今度は直接患者さんから学ばせていただきます。これは看護師・理学療法士・作業療法士としての礎になる非常に重要なことであり、たくさん学んで

現場で患者さんから学んでください」と述べた。

告辞を終えると、2年生161名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。真新しい白衣を身につけた学生たちは、本学附属病院をはじめとする各施設で実習に取り組み、チーム医療の現場において、看護師・理学療法士・作業療法士それぞれの役割を学んでいく。

容で一次審査、最終選考はWEBにてプレゼンテーションを行う形になりました。私は4年次からマルチドクタープログラム受講生として口腔生化学講座に所属し、研究発表を行うのは今回で二度目となりましたが、英語での発表は大変苦労しました。特に今回は、質疑応答の時間も設けられ、自然科学分野特有の英単語や言い回しに苦戦し、改めて英語を聴く力、話す力が重要だと

痛感いたしました。研究室の先生方には大変ご迷惑をおかけしましたが、先生方のサポートのおかげで楽しく研究および発表準備をさせていただき、2位に入賞できました。

今後も研究活動を続け、この経験を活かして根気強く頑張ります。最後に、この研究発表につきまして、ご指導賜りました口腔生化学講座の上條先生、宮本先生、山田先生、吉村先生、笹先生、そして国際交流センターの橋本先生、マイヤース先生にこの場をお借りし、心より感謝申し上げます。

頌彦玲子助教がモリタ優秀発表賞を受賞

第62回国際基礎医学学会学術大会

頌彦玲子助教(歯学部口腔生化学講座)が、第62回国際基礎医学学会学術大会(9月11日から10月9日、WEB開催)で、生化学分野のモリタ優秀発表賞を受賞した。同学会は1959年に設立され、解剖学、組織発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、病理学の7分野の研究者で構成されている。これら各分野の口や顎、顔の多様な研究テーマに対する取り組みを介して、

生命科学研究への寄与と歯科臨床への貢献という役割を担っている。

頌彦助教は研究テーマ「レドロン酸による末梢血管の破骨細胞分化抑制が高評価され同賞に選定された」。

頌彦玲子助教のコメント
このたび、第62回国際基礎医学学会学術大会においてモリタ優秀発表賞を受賞しました。このような



名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。今回、我々は窒素含有型ビスホスホネート製剤NBP製剤の一種であるゾレドロン酸(ZOL)のヒト末梢血管単核細胞(PBMCs)に

本学会での発表は新型コロナウイルスの影響によりWEB開催となり今までとは異なる形式での発表となりましたが、先生方にご指導頂き大変有意義な経験をさせていただきました。今後も、より一層歯学研究に精進していきたいと考えております。最後にいただきましたが、ご指導をいただきました口腔生化学講座の上條竜太郎教授、宮本洋一准教授、口腔外科学講座の代田達夫教授をはじめ、多くの先生にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

2020年度人権啓発標語優秀作品を発表

1月18日、昭和大学2020年度人権啓発標語の優秀作品が発表された。この取り組みは、人権への関心や意識を広め、職員それぞれがお互いを尊重しながら、より学び働きやすい環境を作る一助として毎年行われている。今年度は「新型コロナウイルス感染症」の拡大状況下において「医療従事者へのメッセージ」「社会への感謝の言葉」の2つのテーマで標語を募集し、355件の応募が寄せられ、最優秀作品が4点、優秀作品が9点選定された。最優秀作品は次のとおり。

【医療従事者へのメッセージ／最優秀作品】

- 職場の部
ありがとう マスクの下の その笑顔 (藤が丘病院放射線技術部 堀内伶那さん)
- 家族の部
忘れない コロナと戦う その勇姿 (藤が丘病院管理課 角田真里子さんご家族)

【社会への感謝の言葉／最優秀作品】

- 職場の部
ありがとう 繋いでいこう 心の輪 (昭和大学病院放射線技術部 岡田圭伍さん)
- 家族の部
続けよう みんなを守る エチケット (ディスタンス) (藤が丘病院管理課 角田真里子さんご家族)

黒岩幸雄名誉教授逝去

黒岩幸雄名誉教授(元薬学部臨床薬学講座薬物治療学部門教授)は1月10日逝去された。享年89歳。1月18日に家族葬が執り行われた。黒岩名誉教授は、1955年長崎大学薬学部卒業、1960年東北大学医学部臨床薬学講座薬物治療学部門教授、1967年昭和大学薬学部薬学助教授、1970年薬学部毒物学助教授、1974年薬学部毒物学教授、1992年薬学部臨床薬学教授、昭和大学病院薬剤部長、1995年昭和大学薬学部長、昭和大学理事に就任された。1997年に定年、名誉教授となられた。

に対する作用を解析しました。ZOLで刺激したPBMCsにおいて、多数の骨代謝関連遺伝子が変動することが明らかになり、中でも、CD14細胞において、破骨細胞分化抑制性の転写因子IRF8の発現がZOLにより誘導されることを発見しました。本研究は、ZOLの新たな作用機序の解明につながるものと期待しております。